

滋病防第10号
平成26年(2014年)2月6日

各関係機関の長 様

滋賀県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報(特殊報第1号)について

このことについて、以下のとおり発表したので送付します。

平成25年度 病害虫発生予察特殊報 第1号

平成26年(2014年)2月6日
滋 賀 県

1. 病害虫名：キク茎えそ病
2. 病原名：キク茎えそウイルス *Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)
3. 作物名：キク

4. 発生経過

平成25年12月に守山市内の施設栽培のキクにおいて、茎にえそ症状を示す株が認められた。滋賀県病害虫防除所において診断した結果、CSNVによるキク茎えそ病であることが確認された。本病は国内では平成18年に広島県で発見され、これまでに全国25県で特殊報が発表されている。本県では初めての確認である。

5. 本病の特徴

1) 病徴

茎に激しいえそ条斑を生じ、葉では退緑・えそ症状を呈する(図1)。葉柄基部にえそ症状が生じると葉が垂れ下がる。本病の症状はトマト黄化えそウイルス(TSWV)によるキクえそ病と似るが、茎のえそ症状が激しく、葉の退緑症状は軽い傾向にある。また、発病程度は品種によって異なることが報告されている。

2) 伝染経路

CSNVに感染した株を親株にすると、挿し穂によって伝染する。また、CSNVはミカンキイロアザミウマ(図2)によって媒介される。ミカンキイロアザミウマのふ化幼虫が罹病植物を吸汁することでウイルスを獲得し、終生ウイルス伝搬能力を持つが、経卵伝染はしない。なお、種子伝染および土壌伝染はしない。

3) 感染植物

他県では、キクのほか、トマト、ピーマン、アスター、トルコギキョウなどでの感染が確認されている。

6. 防除対策

- 1) 発生ほ場では感染株を除去する。また、感染親株からは採穂せず、ウイルスが感染していない健全な親株を使用する。
- 2) 施設の開口部に防虫ネットを張り、ミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。
- 3) 粘着板や粘着テープでミカンキイロアザミウマを誘殺する。

- 4) 施設内および周辺の雑草は、ミカンキイロアザミウマの増殖源となるので除去する。
- 5) 夏季の栽培終了時に施設を密閉し、作物や雑草を枯死させるとともに、ミカンキイロアザミウマを死滅させて、保毒虫の施設外への分散を防ぐ。
- 6) ミカンキイロアザミウマの薬剤感受性低下を防ぐため、同一グループ薬剤の連用を避ける。



図1 茎のえそ症状



図2 ウイルスを媒介する
ミカンキイロアザミウマ

滋賀県病虫害防除所
<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/>
滋賀県近江八幡市安土町大中516
TEL:0748-46-4926・6160
FAX:0748-46-5559
Email:GC70@pref.shiga.lg.jp